

ALLEN&HEATH

# Qu-Pac



## スタートガイド

ファームウェアバージョン V1.9



① 作業を開始する前に、ALLEN & HEATH ウェブサイト ([www.allen-heath.com](http://www.allen-heath.com)) で最新の Qu-Pac ファームウェアをご確認ください。

資料番号：AP9815

## ■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

### **警告**

- 必ず本体に記載のある定格電圧の範囲内でご使用ください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因になります。
- 付属の電源コードは本機専用です。ほかの製品に使用するとコードの破損や火災、感電の原因になります。
- 使用する電源電圧に応じて適切な電源コードをご使用ください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因になります。電源コードが傷んだら（断線や芯線の露出など）、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。
- 水に入れたり、ぬらしたりしないでください。火災や感電の原因になります。
- 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。
- 万一、落としたり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

### **注意**

- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
  - ・直射日光の当たる場所
  - ・湿気の多い場所
  - ・温度の特に高い場所、または低い場所
  - ・ほこりの多い場所
  - ・振動の多い場所
- 機器をラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具(オプション)を使用し、重量を支えるために全てのネジをしっかりと固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。
- 配線は、電源コードを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。電源コードを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災や感電の原因となります。

## ■はじめに

このたびは本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

まずこちらの取扱説明書をお読みいただき、性能をご理解いただいた上で用途に応じた最適な使用方法を追求してください。

## 保証について

- ・ 保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より1年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- ・ お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- ・ 改造など通常の使用範囲を超えた取扱いによる故障や、設計・製造以外の要因で起きた不都合は期間内であっても保証の対象外となります。

## 故障かな？と思われる症状が出たときには

こちらの取扱説明書をもう一度お読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときはお買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

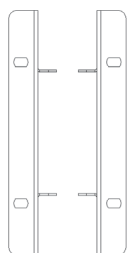
# 1. 梱包内容

## Qu-Pac ミキサー



安全上のご注意、マニュアルダウンロードのご案内

- 作業を開始する前に必ず本書をお読みください。



### 19 インチラックイヤーキット

AA9848-L / AA9848-R  
AB0344 M6x16 ネジ× 4  
AB0345 M6 ワッシャー× 4  
AB0332 M4x8 ネジ× 4



電源ケーブル

## オプション／アクセサリ

### リモート AudioRack

LANケーブルによるdSNAKEデジタル・リモート・オーディオの使用が可能です（推奨ケーブル：CAT5e以上、STP/FTP）。

#### AR2412

24 マイク／ライン入力、12 ライン出力  
品番：AR2412



#### AR84

8 マイク／ライン入力、4 ライン出力  
品番：AR0804



#### AB168

16 マイク／ライン入力、  
8 ライン出力リモート  
AudioRack  
品番：AB168



#### LED ライト

LEDコンソールライト  
18" L型ゲースネック4  
ピンXLR

（ディマー内蔵）  
品番：LED lamp-X



dSNAKE リモートオーディオ用  
Cat6 ケーブル  
AH10884/CAT6ケーブル20m  
AH10885/CAT6ケーブル50m：ドラム付き  
AH10886/CAT6ケーブル80m：ドラム付き  
AH10887/CAT6ケーブル100m：ドラム付き

#### Qu-Pad アプリ (iPad 用)

Qu-You アプリ (iOS / Android デバイス用)

Qu-Control アプリ (iOS デバイス用)

Apple Store / Google Play から入手可能

### ME パーソナルミキシングシステム

ME-1 パーソナルミキサー  
ME-U 10 ポート PoE ハブ



#### Qu-Pac キャリーバッグ

品番：AP9933



オンライン製品登録：[www.allen-heath.com/register](http://www.allen-heath.com/register)

## 2. 目次

1.	梱包内容.....	4
2.	目次.....	5
3.	Qu-Pac の概要.....	6
4.	Qu-Pac の設置.....	7
5.	背面パネル.....	8
5.1	ミキサーの接続と電源投入.....	8
6.	前面パネル.....	9
7.	シグナルプロセッシング.....	10
8.	ワイヤレス制御.....	11
9.	Qu-Start.....	12
9.1	作業開始前のチェック項目.....	12
9.2	スタートポイントの設定.....	12
9.3	セッションに向けたミキサーの準備.....	13
9.4	プロセッシングおよびミックスパラメーターのスタートポイントの設定.....	15
9.5	設定の保存.....	16
9.6	Qu-Pac によるミキシング.....	17
9.7	「Qu-Control」画面.....	19
9.8	セキュリティとユーザーアクセス権限.....	19
9.9	USB レコーディング／プレイバック.....	20
9.10	その他の機能.....	21
10.	ミキサーのリセット.....	22
10.1	Reset Mix Settings：ミキシングのスタートポイント.....	22
10.2	システムハードリセット：全て消去.....	22



### 本書について

本書は、Allen & Heath Qu-Pac rack mount デジタルミキサーのスタートガイドです。Qu ミキサーのセットアップおよびミキシング機能の詳細については、『**Qu シリーズリファレンスガイド**』を参照してください。

**注意：**このガイドは Qu ファームウェア **V1.9** のスタートガイドです。ファームウェアの最新バージョンおよびこのガイドの最新版については、ALLEN & HEATH ウェブサイトを参照してください。**AR2412 / AR84 / AB168** リモート AudioRack の詳細については、それぞれの取扱説明書を参照してください。

### 3. Qu-Pac の概要



Qu-Pac は、ALLEN & HEATH Qu シリーズのデジタルミキサーです。Qu-16 と同じローカル接続端子を備えたフェーダーレスバージョンながら、Qu-32 のミックスエンジンを搭載しているため、dSNAKE デジタルスネークケーブルでオプションの AudioRack を接続することで、最大 32 チャンネルに拡張することができます。iPad などによるワイヤレス操作に特化したSRミキサーですが、前面パネルのタッチスクリーンを使用して操作することもできます。Qu-Pac は、コンパクトなソリューションが求められるさまざまな用途に最適です。

- ワイヤレスリモートミキシング用のコンパクトSRミキサー
- ステージサイドに置かれたライブミックス用、パーソナルモニター用、マルチトラックでのライブ録音用
- イベントの音響技術者用のユーザーログインと音響技術者以外のスタッフによるゾーンコントロール用固定設備ミキサー
- 内蔵のオートマッチックマイクミキサー（AMM）による企業イベントのミキシング
- 台置きまたは 19 インチ 4U ラックマウント（ラックイヤー付属）
- 16chマイク/ライン入力。オプションの各種Audio RackをdSNAKEデジタルスネークケーブルの接続により 32chまで拡張可能
- 3 ステレオライン入力、12 ミックス（4 モノ、3 ステレオ、LR）、4 ステレオグループ、2 ステレオマトリクス
- グループを追加ミックスに変更可能（最大 4 モノおよび 7 ステレオモニター）
- 専用リターンチャンネルを備えた 4 内蔵 FX エンジン
- 4 ミュートグループ、4 DCA グループ
- 入力プロセッシング：プリアンプ、HPF、ゲート、PEQ、コンプレッサー、ディレイ、ダッキング
- 出力プロセッシング：PEQ、グラフィック EQ、コンプレッサー、ディレイ
- 100 個のシーンメモリー（リコールフィルター／セーフ／USB データ転送機能搭載）
- USB ドライブへのステレオおよび 18 トラックレコーディング／プレイバックが可能な Qu-Drive
- 32in × 32out USB ストリーミング、MIDI DAW コントロール
- Qu-Pad ワイヤレスミキシングアプリ（iPad 用）
- Qu-You パーソナルモニタリングアプリ（iPhone、iPad、iPod Touch、Android 用）
- Qu- Control カスタマイズ可能コントロールアプリ（iPhone、iPad、iPod Touch 用）
- ALLEN & HEATH ME パーソナルミキシングシステムに対応
- カスタマイズ可能な 15 ソフトキー、16 Sel キー、Qu-Control 画面
- 不正なアクセスを防止するユーザー権限／ログイン機能

## 4. Qu-Pac の設置



ゴム足

**台置き：**机、棚、その他の平らな面の上で操作します。4つのゴム足が取り付けられていることを確認してください。

※ユニットの周囲に換気のためのスペースを確保してください。

脚を引っかける恐れのないようにケーブルを配置、養生してください。

輸送の際は、目的に合わせて設計されたパッド付きバッグまたはフライトケースに入れてください。



**ラックケース：**標準的な19インチ、4U以上のラックまたはフライトケースにマウントして操作ができます。

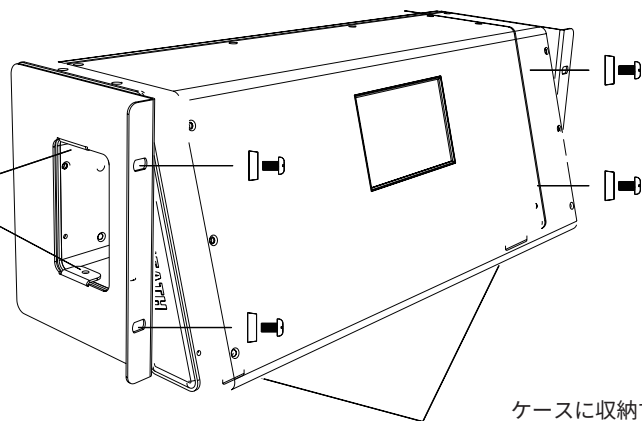
前面パネルは、操作がしやすいように上方に傾斜しています。

背面のコネクターにアクセスしやすいように内部奥行きが200mm程度の「浅い」ケースが推奨されます。

※十分な通気を確保してください、通気口の隙間をふさがないでください。

Qu-Pacにはラックマウント用のラックイヤーキットが付属しています、取付方法は以下のとおりです。

片側ずつ2本のM4x8ネジを使用して、付属のラックイヤーをミキサーに取り付けます。



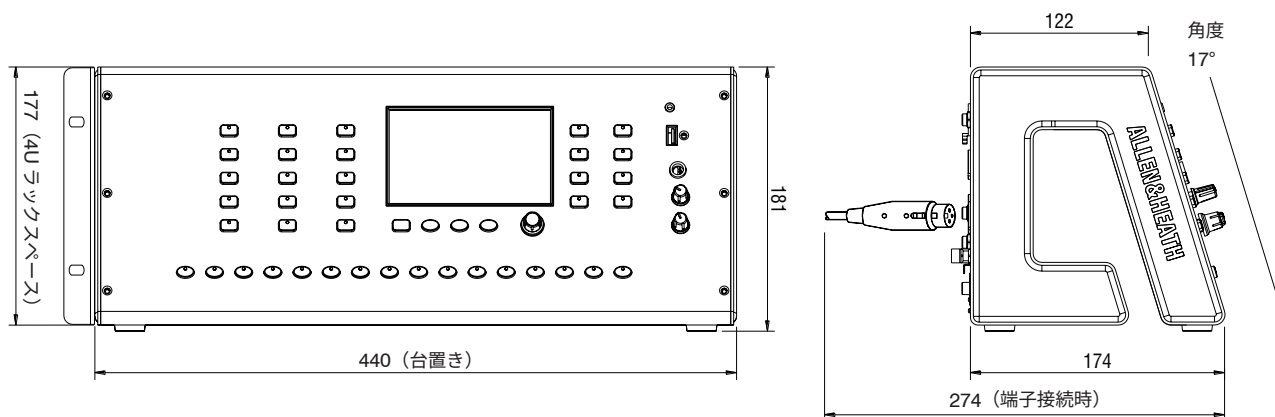
入荷時期によりM6ネジ4個とそれ用のプラスチックワッシャーが同梱されています、これは多くの場合日本国内で流通しているM5ネジを使用するラックには使用できません。それぞれのラックに適合するネジは別途ご用意ください。

またラックへの固定はラックマウントネジで4か所を固定する事、表面を保護したい場合はプラスチックワッシャーの使用をお勧めします

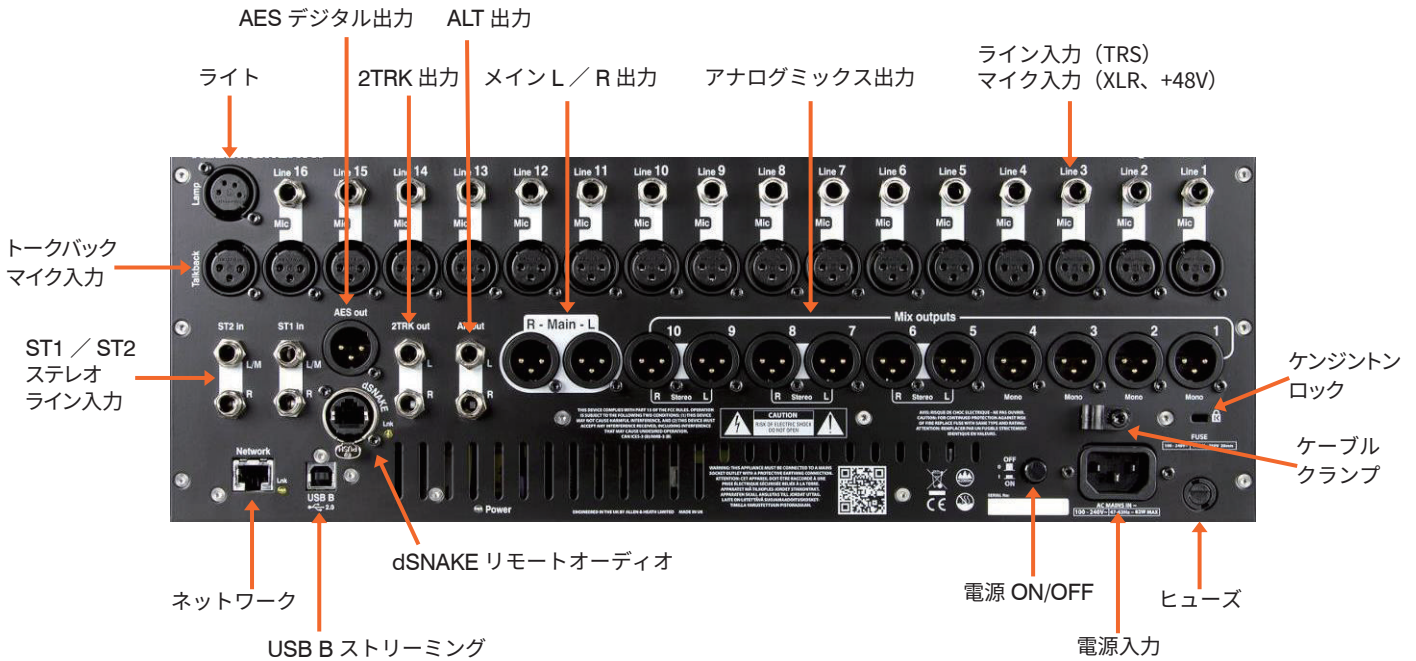
ケースに収納する際にゴム足が邪魔になった場合など、必要に応じて、小型のマイナスドライバーで中央のプラスチック製グロメットを外すことにより、4個のゴム足を取り外します。

① 背面の通気口の周囲およびケースの内側部分に十分な通気を確保してください。側面を塞がないでください。

**寸法** (単位：ミリメートル)



## 5. 背面パネル

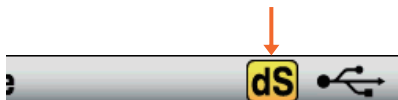


### 5.1 ミキサーの接続と電源投入

AudioRack を使用する場合、dSNAKE ケーブルで接続します。ケーブルは、最長 100m の STP (シールドツイストペア) Cat5e 以上を使用してください。フォイルシールドと編組シールドを両方備えたケーブルは干渉に強く、概して丈夫です。芯線が「より線」のケーブルは、ねじったり繰り返し巻いたりしても比較的破損しにくい構造です。ケーブルは dSNAKE ポートに接続します。2 台目の AudioRack を接続する場合は、1 台目の EXPANDER ポートに接続してください。※2台目にAR2412を接続する事は出来ません。



AudioRack が認識されると、画面ツールバーに dSNAKE アイコンが表示されます。



❗ **重要**：作業を開始する前に、付属の『安全上のご注意』を必ずお読みください。

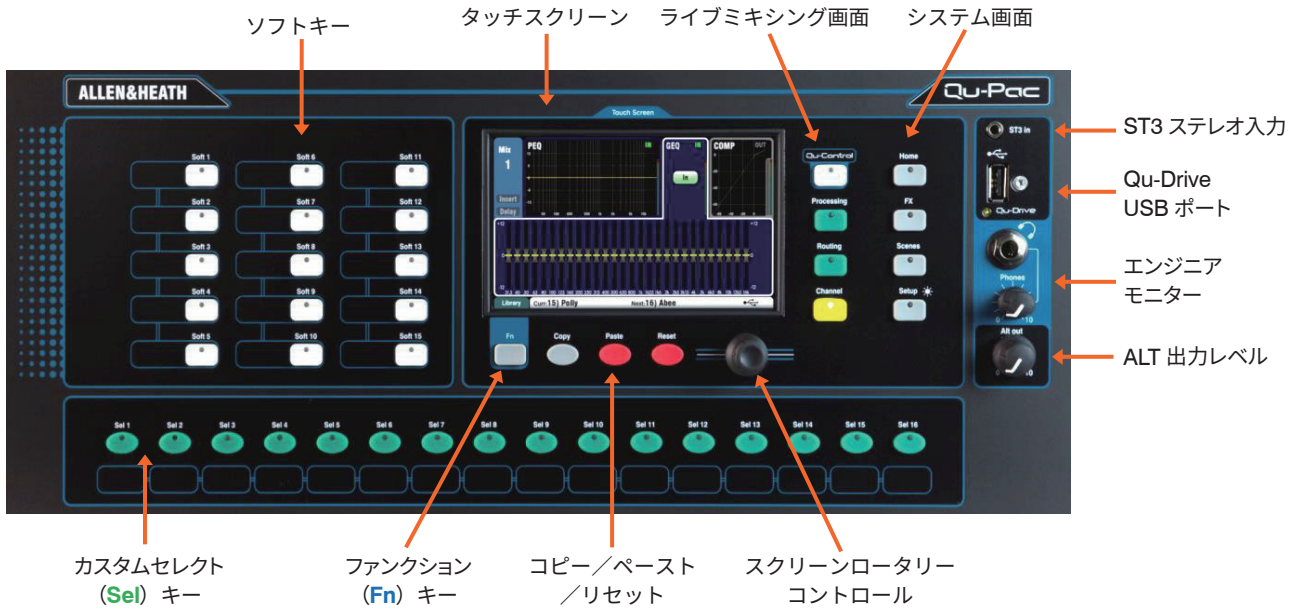
❗ 突然大きなノイズが出るのを避けるために、接続されたパワーアンプやラウド・スピーカーの電源が入った状態でのミキサーの電源 ON/OFF 操作は行わないでください。常にアンプの電源投入は最後に、電源切断は最初に行ってください。

**電源の投入**：ON/OFF スイッチを押します。数秒で起動し、前回の電源OFF時の設定が読み込まれ、LR ミックスが選択された状態でそのプロセッシングが画面に表示されます。

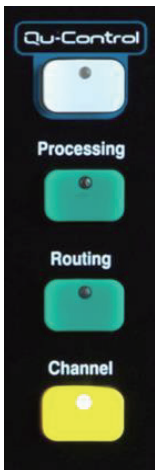
**電源の切断**：まず「Home」画面を開き、「Shut Down」にタッチします。パラメーターの保存や USB データの転送／記録などの処理が安全に完了します。完了したら ON/OFF スイッチを押して本体の電源を OFF にします。



## 6. 前面パネル



**ライブミキシング画面**：レベルコントロールやシグナルプロセッシングなどのライブミキシング機能に素早くアクセスできます。



**Qu-Control**：シンプルな、レベル/ミュート/オンやオフなどの制御をユーザー設定できるカスタム・スクリーンです。ユーザー権限を設定して音響技術者ではないスタッフがコントロールする「Basicユーザー」専用に戻す事ができます。

例：会場へ送る音楽ソースや、そのレベルコントロールを音響技術者ではないスタッフがコントロールする際に有効です。

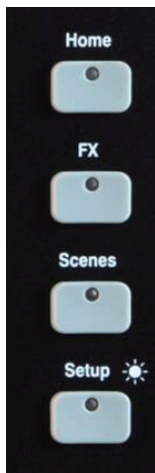
**Processing(プロセッシング/信号処理)**：選択されているSelキー/ボタンに追従して、ルーティングのアサインと関連するオプションの画面が開きます。プリアンプ、ゲート、ダッカー、PEQ、GEQ、コンプレッサー、ディレイ、FXパラメーターなどを備えています。

**Routing(ルーティング/信号経路)**：選択されているSelキー/ボタンに追従して、ルーティングのアサインと関連するオプションの画面が開きます。

**Channel**：ミキシングの主要画面です。選択されたSelキー/ボタンに追従して、仮想の「Fader strip (フェーダー・ストリップ)」画面が開きます。これは、他のQuミキサー製品に付いている物理的なフェーダーに代わるもので、前面パネルでフェーダー操作が行えます。

「Channel」画面には、Qu入力/出力チャンネルおよびDCA/ミュートグループマスターにアクセスするためのtab(タブ)とSelボタンがあります。

**システム画面**：ミキサーのセットアップ、Qu-Driveレコーディング、およびメモリーにアクセスできます。



**Home**：Shut Down (安全なシャットダウン操作)、Lock Surface (ロック・サーフェイス)、User Profiles (ユーザーのプロファイル)の変更/設定、メーターやRTAの表示、Qu-Driveのステレオ/マルチトラックの録音/再生などのシステム管理ページです。

**FX(エフェクター)**：4つの内蔵エフェクターユニットの、Load(読み込み)、Setup(設定)を表示します。BackPanelビューでは、各FXユニットをInsert(インサート)またはSend/Return( SEND/リターン)のパッチができます。リバース、ディレイ、モジュレーションタイプのエフェクターを装備しています。

**Scenes(シーン)**：100個のシーンメモリーの名前設定、保存、および呼び出しを行います。グローバルフィルターまたはシーンフィルターを設定することにより、シーン呼び出しから選択パラメーターを除外することができます。シーン呼び出しからのセーブ設定により、選択チャンネルを上書きから保護することも可能です。

**Setup**：Setup(セットアップ)：Qu-Pacを構成するためのページです。

PAFLオプション、Talk back(トークバック)、Signal Generator(シグナル・ジェネレーター)、Custom Sel keys(カスタムSelキー)、SoftKeys(ソフトキー)、Network(ネットワーク)、MIDI出力パッチなどが含まれています。Scene(シーン)、Library(ライブラリ)、Show data(ショーデータ)のUSBストレージデバイスへの転送や、画面のキャリブレーション、録音用USBデバイスのフォーマット、またミキサー本体のファームウェア・アップデートも行えます。

Setupキーを押しながらスクリーンロータリーを回すと、ディマー機能により画面およびインジケーターの輝度を調整できます。

**カスタムセレクト(Sel)キー**：チャンネル、マスター、DCA グループ、および MIDI ストリップの任意の組み合わせに素早くアクセスできるようにユーザーが設定可能な16個の「Sel」キーです。例えば本番中に使用する機能だけをアサインします。Channel/Custom画面にフェーダーレベルとメーターの表示ができます。名称などを貼るためのスペースとしてラベルストリップが用意されています。

**Copy / Paste / Reset**：プロセッシングパラメーターやミックスパラメーターをコピーまたはリセットできます。コピーするには、Copy キーを押しながらコピー元のパラメーターに関連するキーを押すか、画面上のボタンにタッチします。その後、Paste キーを押しながらコピー先のチャンネルまたはミックスのキーを押すか、ボタンにタッチします。リセットするには、Reset キーを押しながら関連するキーまたはボタンを押します。

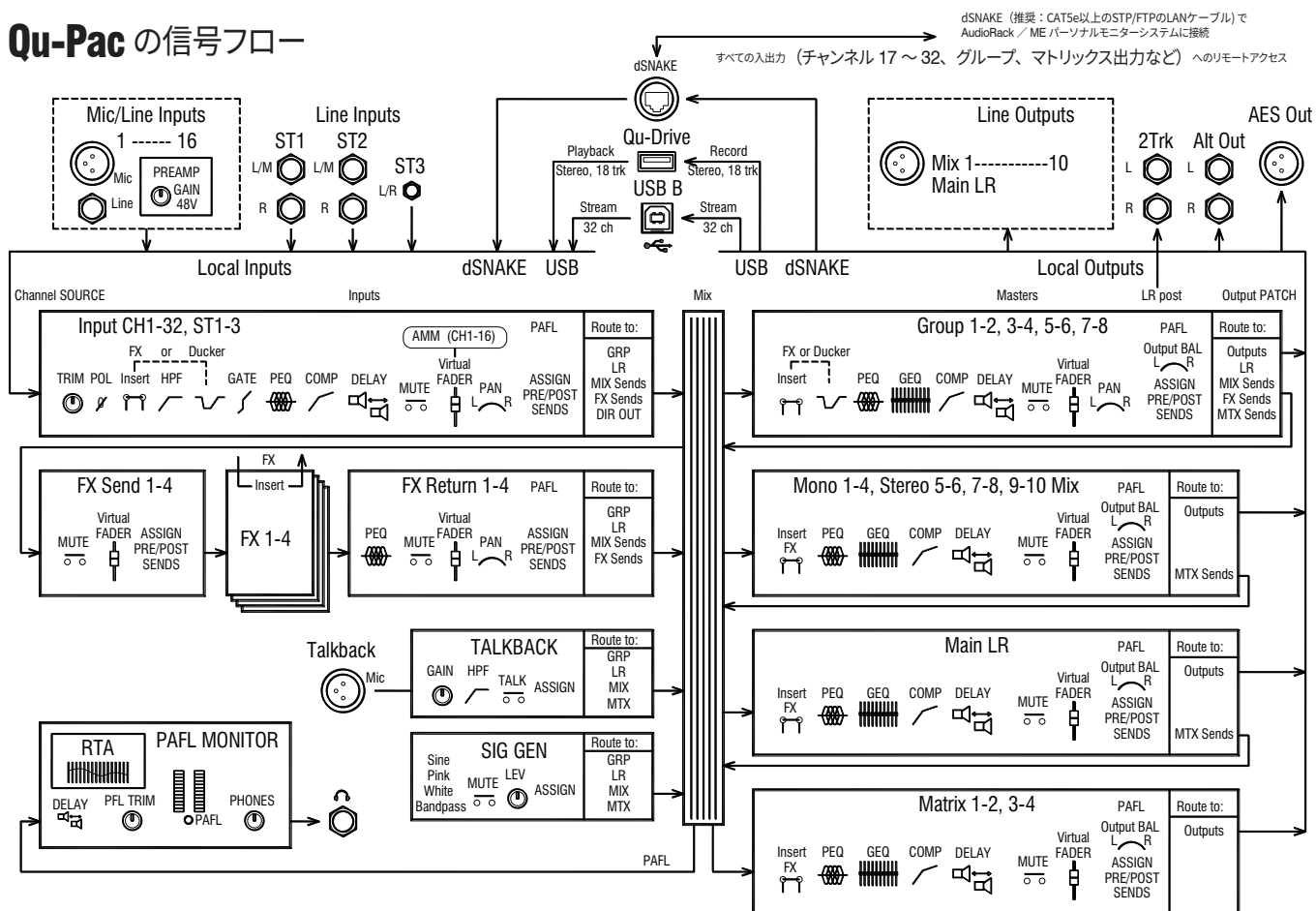
- + Sel キーまたはボタン = 全てのプロセッシング (HPF、Gate、PEQ、GEQ、Comp、Delay)
- + Mix セレクトボタン = Send levels (送りレベル)、PAN、アサイン (プリ/ポスト設定を除く)
- + 「Processing」 画面上部にタッチ = 関連するプロセッシングブロックのみ
- + リスト内のシーン項目にタッチ = シーン名、内容、およびフィルター

**Fn キー**：Fnキーを押して現在選択中の画面のオプションページを開きます。機能は下部ツールバーに表示されます。例えば、「Processing」画面の「Preamp」ページから入力ソースのパッチ設定にアクセスしたり、「Routing」画面からMUTE/DCAグループにアクセスすることができます。

## 7. シグナルプロセッシング

下の図は、Qu-Pac の信号フローとプロセッシングを示しています。詳細な図や情報については、『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

### Qu-Pac の信号フロー



## 8. ワイヤレス制御

iOS デバイス (iPad、iPhone、iPod Touch) 用の ALLEN & HEATH Qu-Pad / Qu-You / Qu-Control アプリは、App Store から無料で入手できます。Qu-You は Android デバイス用も用意されています。

**Qu ワイヤレスネットワークのセットアップ**：最適なパフォーマンスを得るには、自動チャンネル選択機能を備えたデュアルバンド (2.4 / 5GHz) ワイヤレスルーター (ワイヤレスアクセスポイント) を使用してください。人や機器などの障害物を避けるためになるべく高い位置に設置します。柱や壁の後方や、金属製の梁の近く、またはスピーカーの上への設置は避けてください。ミキサーの「**Setup**」>「**Network**」画面を開き、DHCP が有効になっていることを確認します。



① Qu ミキサーファームウェアとアプリのバージョンは互換性が必要です。例えば、V1.9 アプリは V1.8 ファームウェアでは動作しません。予期しないバージョンの不一致を避けるために、デバイスの「自動アップデート (日本語版) / auto update (英語版)」の機能はオフにしておくことをお勧めします。最新の Qu ミキサー用のファームウェアは ALLEN & HEATH のウェブサイト ([www.allen-heath.com](http://www.allen-heath.com)) よりダウンロードできます。

① Qu ミキサーの不正な操作を防止するために、ルーターのパスワードを設定してワイヤレスネットワークを保護することをお勧めします。

① ワイヤレスデバイスはネットワーク設定を記憶します。先々、ゲストエンジニアが現場に持ち込んだデバイスを使用して、パスワードなしでワイヤレスネットワークにアクセスするのを防止するには、そのエンジニアのデバイスの「設定」>「Wi-Fi」メニューでそのワイヤレスネットワークを選択し、「このネットワーク設定を削除」機能を使用します。

**ワイヤレスネットワークへの接続**：ルーターの電源を入れます。接続が確立されるまで数分待ちます。ワイヤレスデバイスの「設定」画面を開き、ミキサーの Wi-Fi ネットワークを探し、接続します。

**アプリの起動**：アプリを起動すると「Login」ページが開きます。Qu ミキサーが Wi-Fi ネットワーク上で認識されるとリストに表示されます。これを選択し、「Connect (接続)」にタッチします。ミキサーにログインパスワードが設定されている場合、入力を求められます。詳細については、アプリのヘルプを参照してください (アプリのヘルプマニュアルは、の「ログイン」または「Setup」ページの「？」ボタンにタッチすると表示されます)。



**Qu-Pad** は、室内やステージ上を自由に歩きながら、必要に応じてサウンドを調整できるエンジニア用ミキシングツールです。Qu-Pad は、Qu ミキサーのユーザープロフィールおよび権限設定に従います。



**Qu-You** は、ステージ上のミュージシャンがパーソナルモニターミックスを調整できるようにするアプリです。その間も、エンジニアは Qu ミキサーで各ミックスを監視し、必要に応じていつでも調整できます。Qu-You ユーザーのパスワードはミキサー側で設定できます。

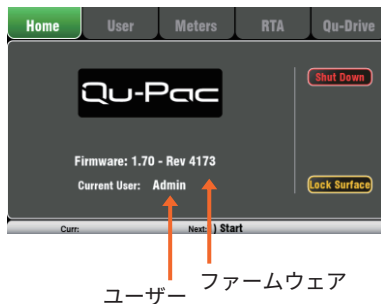


**Qu-Control** は、最大 5 つの画面タブとタブごとに最大 15 個のコントロール「ウィジェット」でカスタマイズ可能なアプリです。ウィジェットには、BGM ソースの選択からマスターゾーンレベル、マイクのページングまで何でも構いません。Qu-Control ユーザーのパスワードはミキサー側で設定できます。

## 9. Qu-Start

このセクションでは、Qu によるミキシング手順を簡単に説明します。詳細については、このガイドの他のセクションや『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

### 9.1 作業開始前のチェック項目



**Qu ミキサーのファームウェアのバージョン:** 「Home」画面で現在のバージョンを確認し、ALLEN & HEATH ウェブサイト ([www.allen-heath/key-series/qu-series](http://www.allen-heath/key-series/qu-series)) で最新バージョンを確認します。最新でない場合は「Setup」>「Utility」>「Firmware」画面でダウンロードし、アップデートします。

**Qu-Pad / Qu-Control / Qu-You アプリのバージョン:** は、互換性が必要です。互換性の無いバージョン間では、アプリはミキサーに接続できません。最新のバージョンは常にApp Storeから無料でダウンロードできます。

ミキサーのファームウェアをアップデートする前にアプリがアップデートされてしまうことを防止するために、iOSデバイスの「自動アップデート (日本語版) / auto update (英語版)」の機能はオフにしておくことをお勧めします。

**ネットワークおよび Wi-Fi 設定:** ルーター (ワイヤレスアクセスポイント) を Qu の Network ポートに接続します。「Setup」>「Control」>「Network」画面で、DHCP が有効になっていることを確認します。ルーターにパスワードが設定されていることを確認します。Qu ワイヤレスネットワークは、建物内の他の Wi-Fi ネットワークまたはインターネット接続とから独立させてください。

**Current User (現在のユーザー):** 「Home」画面で現在のユーザーを表示します。Admin ユーザーは全項目にアクセスでき、通常はミキサーの所有者またはシニアエンジニアに割り当てます。Standard および Basic ユーザーは、Admin ユーザーによってアクセス制限が設定されています。パスワードの設定が可能です。

**Calibration (キャリブレーション/校正):**

「Setup」>「Utility」>「Calibration」画面で、タッチスクリーンをキャリブレーションできます。

**Dimmer (ディマー):** タッチスクリーンおよびキーイルミネーションの明るさを調整するには、Setup キーを押しながらロータリーコントロールを回します。Qu は最大の明るさで起動します。

### 9.2 スタートポイントの設定



ミキサーを完全にリセットするには、起動時にシステムハードリセットを実行します。この操作は絶対に必要な場合に限ってください。実行すると全てのメモリー (シーン、ユーザーライブラリー、ユーザープロファイル、パスワード) が消去され、すべてのデータが工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。

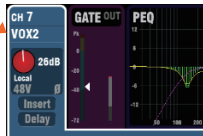
新しいセッションやイベントのセットアップ用のスタートポイントとしてミキサーを設定するには、「Scenes」ページの「Reset Mix Settings」機能を使用します。これは、現在のミックスパラメーターを全て工場出荷時設定にリセットする特別なシーンで、メモリーとシステム設定 / プリファレンスには影響しません。

このリセットは、Global Scene Filter の影響を受けません。むしろ、Global Scene Filter をリセットし、チャンネル Safes 設定も消去します。「Reset Mix Settings」ボタンを2秒間長押しした後、確定します。

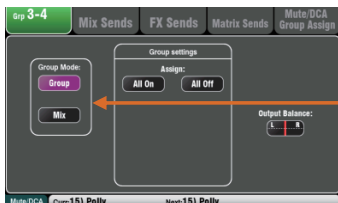
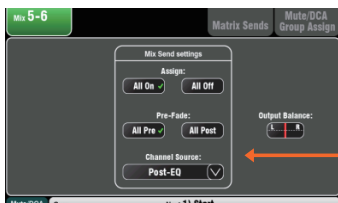
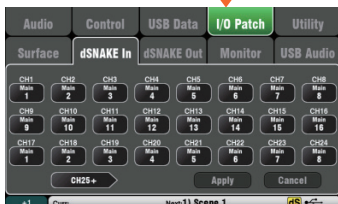
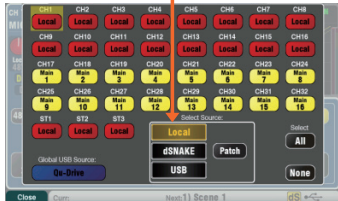
好みのスタートポイントを設定するには、独自のテンプレート シーンをセットアップして保存し、これを USB キーに保存して、今使用している Qu ミキサーや他の Qu ミキサーにロードすることができます。

## 9.3 セッションに向けたミキサーの準備

タッチして名前を入力



入力端子をパッチ



前面パネルまたは背面パネルを表示



FXプリセットを選択



**チャンネル名およびマスター名の入力：**回線表や各種資料に従い、ミキサーの「**Processing**」画面で、チャンネル・ネームを入力します（最大6文字）。タッチするとキーパッドが開きます。Qu-Pad アプリを使用して名前を入力することも可能です。

**チャンネルソースの選択：**モノラル/ステレオチャンネルごとに、Local（背面の入力端子）、dSNAKE（リモート接続のAudioRack）、USB（プレイバック用のUSBキー）の3つのソースからいずれかを選択できます。

デフォルト：

CH1～16 = ローカル入力

CH17～32 = dSNAKE 入力1～16

チャンネルソースを変更するには、入力の「**Processing**」画面で **Fn** キーを使用して「**Source**」ページを開きます。

対応する各種リモートAudioRack機器を接続している場合は「dSNAKE」を選択します。Audio Rackの端子のマッピング（チャンネルの割り当て構成）を別のチャンネルにしたい場合は、Patch)にタッチして「**Setup**」>「**I/O Patch**」>「**dSNAKE In**」画面を開きます。デフォルト設定ではあらかじめ1対1のマッピングになっています。

USBでのプレイバック音源の入力をする場合は、「Global USB Source」ボタンをタッチすると「Qu-Drive」または「USB Streaming」が選択できます。この設定はすべてのチャンネルに反映します、あらかじめご注意ください。

**ミックスのルーティングとプリフェーダー/ポストフェーダー設定の確認：**ミックス 1～10 は、プリフェーダーまたはポストフェーダーの設定、チャンネルのアサイン、チャンネルの信号パス内のセンドポイントの選択が可能です。

各ミックスを全て ON または OFF、全てプリフェーダーまたはポストフェーダーに設定する場合、マスターの「**Routing**」画面を使用すればスタートから素早くセットアップできます。

デフォルトは全てプリフェーダーで、全てのチャンネルがアサインされ、センドはポストEQです（コンプレッサーに影響されません）。これはミックスをモニターセンドとして使用する場合に最適です。エフェクトおよびその他のセンドについては、ポストフェーダー/ポストディレイ（全てのプロセッシングの後）に変更可能です。

**グループのセットアップ：**グループは、オーディオ・サブグループまたは追加のステレオミックスとして構成できます。例えば、多数のインイヤーモニターを使用する場合などでも使用できます。動作モードの確認または変更はマスターの「**Routing**」画面で行います。サブグループを使用してLRに送る場合、そのグループにアサインするチャンネルのLRミックスへのアサインをOFFにすることを忘れないでください。

**マトリクスセンドのセットアップ：**「Matrix **Routing**」画面で **Fn** キーを使用して「**Matrix View**」ページを開き、センドレベルとルーティングを設定します。

**FXのセットアップ：**「**FX**」画面を開き、4つの内蔵FXユニットをセットアップします。デフォルトの構成では、リバーブ2系統とディレイとADT（オートダブルトラックキング：コーラス系エフェクト）が各1系統です。変更するにはFnキー「**Library**」ページを開き、それぞれのFXタイプとプリセットを選択して呼び出します。

FXパッチ設定は「**Back Panel**」画面で確認できます。リバーブやディレイなどのエフェクトは、MixからReturnにパッチします。チャンネルまたはミックスにFXをインサートすることもできます。

**MUTE/DCA グループのセットアップ：**「**Channel**」画面で「**Masters**」にアクセスします。「**Routing**」画面で **Fn** キーを使用して「**Mute/DCA**」ページを開き、グループの名前設定とアサインを行います。FXリターンにMUTE/DCAグループをアサインすると、曲間で素早くエフェクトのレベルを下げたりミュートしたりすることができて便利です。グループミュートをソフトキーにアサインしておけば素早くアクセスする事も可能です。

**パッチング**：デフォルトでのパッチ設定は、背面のローカル端子とチャンネルのシンプルな 1 対 1 のマッピングであり、典型的な PA アプリケーションに適した出力パッチです。ただし、Quは柔軟なパッチも可能で、信号を任意にルーティングする事も可能です。

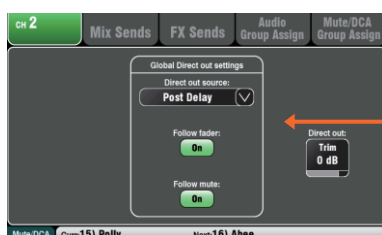


パッチ画面の多くは、Fn キーを「+1 (加算)」として使用して、ソケットの範囲をすばやくステップスルーできるようにします。ほとんどの場合、変更する際は「Apply」にタッチして変更を適用する、または「Cancel」する確認が必要です。

**Alt出力とAES3デジタル出力のパッチ**：「Setup」>「I/O Patch Surface」画面で、Alt出力とAESデジタル出力のパッチもできます。Alt出力は録音用のステレオソースや、ゾーン別の出力用に使用すると便利です。フロントパネルのスクリーン・ロータリーで出力コントロールができます。



**dSNAKE リモート出力のパッチ**：「Setup」>「I/O Patch」>「dSNAKE Out」画面で、Quに接続されているAudio Rackのいずれかの出力用端子にパッチします。



**ダイレクトアウトの用途の選択**：チャンネルダイレクトアウトの用途を検討します。例えば、USB レコーディング、ME-1 パーソナルモニタリング、チャンネルダッカーのトリガー、シングルチャンネルのFXなどが考えられます。ソースの設定は、任意の入力チャンネルの「Routing」画面で行います。この設定はグローバルに機能するため、全てのダイレクトアウトに影響します。

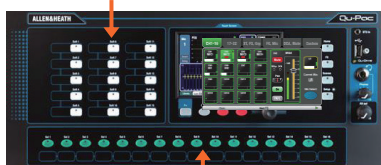
**ME-1パーソナルモニター (別売) へのパッチ**：「Setup」>「I/O Patch」>「Monitor」画面を開き、Quの出力をME-1にパッチします (最大40ch)。一般的には入力チャンネルのダイレクトアウトを使用します。ダイレクトアウトのおすすめの設定は、post delay (ポスト・ディレイ)、pre fader (プリ・フェーダー)、post mute (ポスト・ミュート) です。



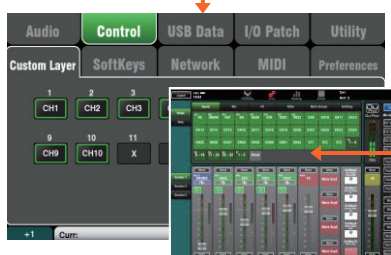
**USB 出力のパッチ**：「Setup」>「I/O Patch」>「USB Audio」画面で、Quの出力を Qu-Drive マルチトラックおよび背面パネルの USB B スตรีミングポートにパッチします。USB スตรีミングは 32 系統の出力を全て使用します。Qu-Drive レコーディングは最初の 18 系統の出力から送られ、Qu-Drive ステレオレコーディングは出力 17 と 18 から送られます。

ライブショーのマルチトラックレコーディングでは、ライブミキシングがレコーディングに影響しないようにチャンネルのインサートセンドを使用する方法もあります。スタジオレコーディングやその他の用途では、これをダイレクトアウトに変更することもできます。

ソフトキー



カスタムレイヤー



**Soft Keys (ソフト・キー) へのアサイン**：Qu-Pac の前面パネルにある 15 個のキーには、ミュート、タップテンポ、シーン、Qu-Drive トランスポートなどの各種機能をアサインできます。アサインは「Setup」>「Control」

>「SoftKeys」画面で行います。ロータリーでオプションのリストをスクロールして選択し、「Apply」ボタンにタッチして確定します。

**Custom Layer (カスタム・レイヤー) へのアサイン**：Qu-Pac の前面パネルにある 16 個のカスタムセレクトキーには、チャンネル、FX、ミックス、DCA、および MIDI セレクトを自由に組み合わせアサインできます。それにより、ショーで使用するチャンネルを素早く選択できます。アサインは「Setup」>「Control」>「Custom Layer」画面で行います。Fn キーの「+1」(インクリメントキー)を使うと、アサインを早く加算する事ができます。デフォルトは CH1 ~ 16 です。

**Qu-Pad アプリのカスタムレイヤーへのアサイン**：iPad アプリを使用してワイヤレスミキシングを行う場合、最大 3 つのカスタムレイヤーにアサインしてフェーダーストリップとソフトキーに任意の順序で表示することができます。それには上部ツールバーの「Setup」アイコンを選択します。

## 9.4 プロセッシングおよびミックスパラメーターのスタートポイントの設定



まず、「**Processing**」画面の「Preamp」ページで「**Linked (リンク)**」ボタンを使用して、必要に応じて奇数/偶数チャンネルをステレオペアとしてリンクします。例えばステレオ出力のキーボードやバックingtトラック (カラオケやマイナスイン) のような再生ソースで使用します。リンクしたペアの片側チャンネルのPanを操作するとWidth (ステレオワイド) が調整できます。サウンドチェックを開始できるように入力およびミックスチャンネルのプロセッシングを素早くセットアップするには、いくつかの方法があります。

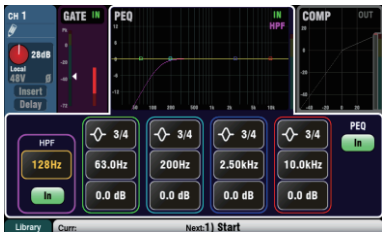
Processing Libraries (プロセッシングのライブラリー) :

「**Processing**」画面で、**Fn** キーを使用して関連ブロック (PEQ など) の「**Library**」ページを開きます。

ファクトリーライブラリーには、スタートポイントの参考となる典型的なプリセットが用意されています。このライブラリーに上書きをしたり削除することはできません。保存したい場合は**ユーザーライブラリー**を使用してください、名称を含む編集が可能です。

**Channel Libraries (チャンネルのライブラリー)** : このプリセットは、入力チャンネルの全てのプロセッシング (Gate, PEQ, Comp, Delay) を呼び出します。プリアンプ設定 (ゲイン、パッド、48V、極性) も含めたい場合は「**Recall Preamp**」をONにします。チャンネルライブラリーには、Link (リンク)とDucker (ダッカー) の設定含まれていません。

チャンネル・ライブラリーを使用することにより、チャンネル名さえ設定するだけで、確実に早いサウンドチェックのスタートポイントになります。



**Copy (コピー) / Paste (ペースト) / Reset (リセット)** : これらのキーは、プロセッシングを素早く設定するための強力なツールです。操作方法は共通で、各キーを押しながら別の項目を押すかタッチすると、操作が実行されます。

+ 前面パネルの**Sel** キー = 全ての関連プロセッシング (プリアンプ以外)  
+ **チャンネル**セレクトボックス = 全ての関連プロセッシング (プリアンプ以外)

+ **プロセッシング**の「**In**」ボタン = そのブロック (PEQ など) のみ  
+ 「**Processing**」画面上部 = そのブロックのみ  
+ 「**Processing**」画面上部のゲインノブ = プリアンプ  
+ **チャンネル**のミックスセレクト (**Mix**) ボタン = そのチャンネルのミックスレベル、パン、アサイン。

この操作は、チャンネルのLink (リンク)とDucker (ダッカー) の設定には影響しません。

**Reset** : 関連パラメーターを工場出荷時設定にリセットします。例えば、PEQ はフラット、Gate は Out、ミックスレベルは OFF、パンはセンター、アサインは ON になります。

**Copy / Paste** : Copy を押しながら、設定をコピーしたい項目を押すかタッチします。その後、Paste を押しながら、設定を貼り付けたいチャンネルの**Sel** キー、Select ボックス、または **Mix** ボタンを押すか/タッチします。設定を複数のチャンネルまたはミックスに素早く貼り付けることができます。例えば、CH2 の PEQ のみを CH3、CH4、CH5 にコピーするには、次のように操作します。

Copy を押しながら画面上部の CH2 PEQ を押し、  
Paste を押しながら CH3、CH4、CH5 の **Sel** キーを押す

**Qu-Pad アプリ** : チャンネル名の設定、チャンネルのリンク設定、ライブラリーの呼び出しは、Qu-Pad アプリを使用して行うこともできます。



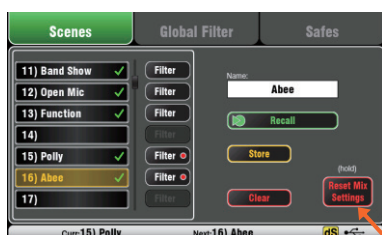
パラメーターをリセット  
パラメーターを貼り付け  
パラメーターをコピー

## 9.5 設定の保存

**Scenes memories (シーンメモリー)** :セッションに向けたミキサーのセットアップが完了したら「**Scenes**」画面を開き、現在のミックス設定に名前を付け、シーンとして保存します。

サウンドチェック、ショー、レコーディングセッションなどの後に、バンドごとにシーンに名前を付けて、**テンプレート**として保存しておけば、今後のセッションの**スタートポイント**として役立ちます。

Qu ミキサーには最大 100 個のシーンを保存できます。既存のシーンはコピーおよび消去が可能です。シーンをコピーするには、**Copy キー**を押しながらリスト内のシーンにタッチします。その後、**Paste キー**を押しながらコピー先のシーン位置をタッチすると、全てのシーンパラメーター、名前、およびフィルターがコピーされます。



リセットにタッチして長押し  
1つ以上アサインされていると  
ドットが点灯



パラメーターのグループ



**Reset Mix Settings (セッティングのリセット)** :新しいミキシングセッションを開始できるようにミキサーを初期化します。全てのミキシングパラメーターがゼロ・リセットされ、SafesおよびGlobal Filterの既存設定が消去されます。シーン、ライブラリー、およびユーザープリファレンスには影響しません。

**Scene Safes (シーン・セーフ)** :この機能は、シーンがリコールされたときに、選択したチャンネル、またはミックスのすべてのパラメーターが変更されるのを防ぎます。これは、サウンドチェック後にシーンが保存され、保護されたチャンネルで行った変更は、後でそのシーンを呼び出しても変わらないことを意味します。固定された使用環境で変更したくないチャンネル、例えばBGMやMCなどで使用できます。

**Global Scene Filter (グローバル・シーン・フィルター)** :全てのチャンネルとミックスの**選択したパラメーターのみ**がシーンを呼び出した際に変更されないよう保護します。例えば、サウンドチェック後に行うソフトキーまたはカスタムレイヤーへのアサインや、観客の入り具合に応じて行う GEQ などの LR ミックスプロセッシングの変更などを保護できます。設定は「**Scenes**」>「Global Filter」画面で行います。チャンネルタイプごとに、保護するパラメーターのグループを指定するためのボタンのグリッドが表示されます。デフォルトではカスタムレイヤーとソフトキーが保護されます。

**Scene Filter (シーン・フィルター)** :グローバル・シーン・フィルターに似ていますが、選択したパラメーターは一つのシーンだけ保護します。各シーン毎に選択(フィルター)できます。これらは例えば劇場でキューによる変更をしたり、曲中でエフェクターを変更する場合などに強力なツールとなります。シーン・フィルターは個々にコピーや消去が可能です。

**Show Memories (ショーデータのメモリー)** :「ショー」には現在のミックス設定、100シーンのライブラリー、セットアップされた全データが保存されます。ショーはミキサーの内部には保存されず、Qu-Drive 端子に接続された USB ドライブに直接作成されます。

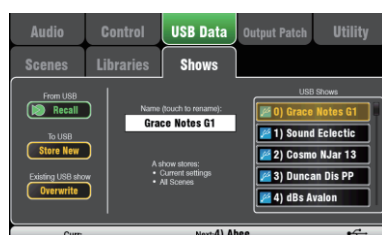
① USB キーに保存されたファイルの名前や場所を編集しないでください。

**USB 経由でのデータのアーカイブ/転送** :USB キーや USB ドライブなどの USB デバイスを使用して Qu の設定をアーカイブしたり、Qu ミキサー間で転送したりすることができます。メモリーは Qu の全モデル間で互換性があります。まず、Qu ミキサーで USB デバイスをフォーマットする必要があります。それには

「**Setup**」>「**Utility**」>「Qu-Drive」画面の「Format」機能を使用します。

① フォーマットを行うと、デバイス上の既存データが全て消去され、Qu ディレクトリーが作成されます。Qu ミキサーでの USB デバイスのフォーマットは 1 回行うだけでかまいません。PCなどを使用して USB デバイスの Qu のデータやファイル名の編集を行わないでください、Qu ミキサー専用としてご使用をお願いします。

シーン、ユーザーライブラリー、およびショーファイルの転送は「**Setup**」>「**USB Data**」画面で行います。





## 9.6 Qu-Pac によるミキシング :

### ワイヤレスミキシング

**Qu-Pad アプリ:** Qu-Pac のネットワークポートに接続された Wi-Fi ルーター経由で、iPad を使用したワイヤレスコントロールによるミキシングを可能にするエンジニア用ツールです。Qu-Pad が動作する iPad を 2 台まで接続できます。

**Qu-You アプリ:** iPhone、iPad、iPod Touch、または Android デバイスを使用したルーター経由でのワイヤレスコントロールにより、ミュージシャンが自身のモニターをミキシングできるようにします。メイン LR ミックスにはアクセスできず、1 つのミックスのみにロックできます。Qu-You が動作する iOS デバイスを 8 台まで接続できます。接続可能な最大デバイス数は 8 台です。例えば、Qu-Pad を 1 台接続している場合、Qu-You は 7 台まで接続できます。

ミキサー側で Qu-You ログインのパスワードを設定することにより、不正アクセスを防ぐことができます。

必要に応じてレイアウトをカスタマイズするには、Qu-Pad のカスタムレイヤーと Qu-You のアサインブルグループホイールを使用します。詳細についてはアプリ内のヘルプページを参照してください。



ソフトキーのデフォルト設定 :

1 ~ 4 = ミュートグループ 1 ~ 4

5 ~ 13 = 未使用

14 = PAFL クリア

15 = トーク

ライブミキシング画面



Soft Keys (ソフトキー) と Custom Select Layer (カスタム・セレクト・レイヤー)

### Qu-Pac の前面パネルによるミキシング

Qu-Pac の設計目標の 1 つは、前面パネルから全てのチャンネルや機能にアクセスできるようにすることでした。これは、シンプルなショーや会議であれば iPad 不要でミキシングできるということであり、Wi-Fi の干渉の問題が発生した場合のバックアップにもなります。

ユーザーが任意の機能の割り当てができる Soft Keys ソフトキーは、イベントで重要な機能に素早くアクセスできるようにします。

ユーザーの任意で選択・構成ができる Custom Select Layer (カスタムセレクトレイヤー) は、イベントで使用するチャンネル、FX、ミックス、および DCA の任意の組み合わせに素早くアクセスできるようにします。

「Channel」画面：ミキシングの主要な画面です。

他の Qu ミキサー 製品のフェーダーセクションを、画面上の「Virtual Fader Strip (バーチャル・フェーダーストリップ)」とタブに配置された Select (選択) ボタンに置き換えて、全ての入力チャンネル、エフェクター、ミックス、および DCA マスターにアクセスします。

タッチするとチャンネルが選択されます。

Select ボタンには、名前、レベル、メーター、ミュート、ルーティングステータスが表示されます。



タッチすると現在のミックスを変更できます。「Mix Select」ポップアップが開きます。

別のミックスを選択します。レベルの色がメインミックス以外であることを示す青色に変わります。これでそのミックスへのセンドを調整できます。

タッチするとチャンネル名を設定できます。

タッチすると現在のミックスマスターが選択されます。

フェーダーにタッチし、ロータリーを使用して現在のミックスへの選択チャンネルのレベルを調整します。

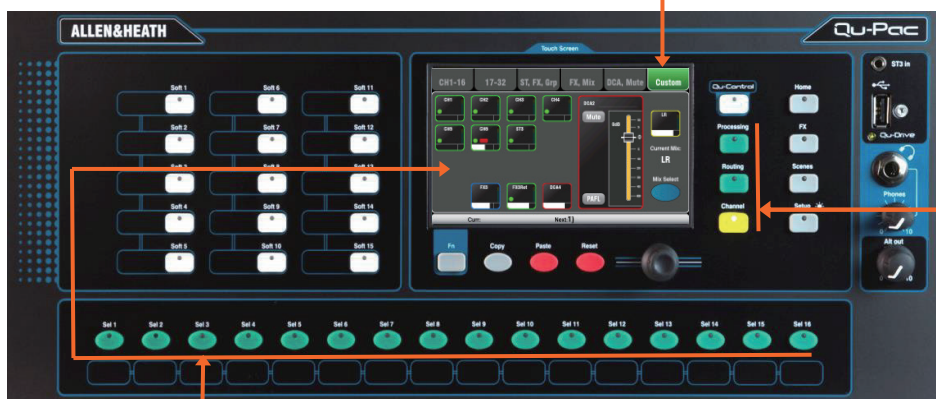
パンにタッチし、ロータリーを使用して信号を LR 間に定位させます。

タッチすると、ミュート/ミュート解除、現在のミックスへのルーティング ON/OFF、および PAFL ヘッドホンモニタリングが切り替わります。

下部ツールバーには、シーン、Qu-Drive、およびシステムステータスが表示されます。

① 別のミックスの調整が完了したら、忘れずにメイン LR ミックスに戻してください。

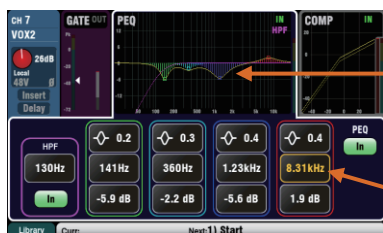
「Channel」画面のCustom(カスタム)ページ



カスタムセレクトキー

**Custom Select Keys (カスタム・セレクトキー)** によるミキシング：押すと、これらのクイックアクセスキーにアサインされているチャンネル、マスター、DCA グループ、または MIDI ストリップが選択されます。

フェーダー、パン、ミュート、ルーティング、およびミックスセンドの調整は「Channel」>「Custom」画面で行います。プリアンプ、ゲート、EQ、コンプレッサー、ディレイの調整は「Processing」画面で行います。ミックスアサインおよびルーティングオプションの設定は「Routing」画面で行います。



**Processing screen (プロセッシング画面)**：選択したチャンネルまたはマスターのプロセッシングを調整できます。

画面上部にタッチすると、下のセクションに関連パラメーターが表示されます。また、Copy / Paste / Reset キーを押しながら画面上部にタッチすることにより、さまざまな処理ブロックのコピーやリセットを素早く行うこともできます。

各パラメーターのボックスをタッチするとハイライト表示をします、値の変更はロータリーコントロールを使用します。

**Fn** キーを使用して、現在のプロセッシング画面の別ページを開くことができます。



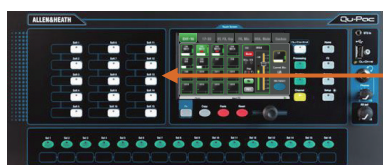
Pre amp (プリアンプ) =ソース選択 (入力パッチ)  
Gate,PEQ,GEQ,Comp=Library (ライブラリー)

**FXParameters (エフェクターのパラメーター)**：FFX センドまたはリターンチャンネルを選択し、Processing (プロセッシング) 画面を開くとエフェクターのパラメータが表示され、操作ができます。さらに高度な多くのパラメーターを試してみたい場合は、{Expert} をタッチします。Fn キーを使用して「Library」ページを開くと、FX タイプの変更やプリセットの保存/呼び出しを行うことができます。



**Routing screen (ルーティング画面)**：この画面では1つのチャンネルから全てのミックスへのセンドを調整したり、ミックスのグローバル設定やルーティングオプションにアクセスしたりすることができます。全てのチャンネルから1つのミックスへのセンドを調整するには、「Channel」画面のミックスセレクト機能を使用します。

また、「Routing」画面で **Fn** キーを使用すると、マトリクスが選択されている時はマトリクスセンド、マトリクス以外が選択されている時はMUTE/DCAグループのアサインと名前の設定もできます。

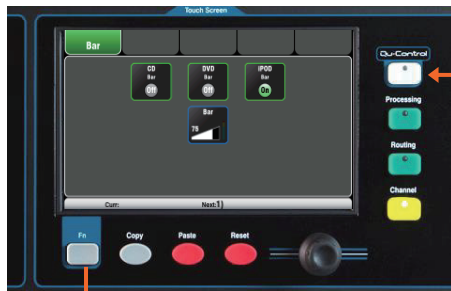


**Soft Keys (ソフトキー)**：ミュート、特定のシーンの呼び出し、シーンの操作、

タ ップテンポ、Qu-Drive トランスポートコントロール、ステージへのトークバック、アクティブな PAFL の解除など、使用頻度の高い機能に素早くアクセスできます。ソフトキーのアサインは「Setup」>「Control」>「SoftKeys」画面で行います。

## 9.7 「Qu-Control」画面

Qu-Controlは、基本的な操作に必要ないくつかのコントロールのみを表示できる任意にアサイン可能な画面です。たとえば、商店や飲食店などでBGMのソースとレベルのみをコントロールする場合などに便利です。Quの管理者ユーザーが設定したBasicユーザーのアクセス権でオペレーター以外のスタッフがBGMの調整のみをこの画面を使用して行うようにできます。ライブミキシングやセットアップ機能へのアクセスはBasicユーザーには行えないように設定できます。



**Qu-Control の操作：**押してQu-Control画面を開きます。管理者ユーザーが設定したボタンとレベルコントロールが表示されます。

何も設定されていない場合、画面は空白になります。タブで最大5つのカスタム画面にアクセスできます。

ボタンを押すと画面が切り替わります。タッチしてレベルコントロールをハイライトし、スクリーンロータリーを使用して調整します。

**Qu-Control のセットアップ：**Adminユーザーは、画面に表示されるコントロールと、それらが画面上のどこに配置されるかを構成できます。

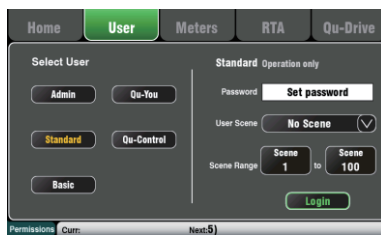
**Fn**キーを押して、現在選択されているタブのQu-Control セットアップページを開きます。コントロールは、3行5列のグリッドとして配列された最大 15 の位置にアサインできます。アサインされていない位置は、ユーザー画面ではブランクになります。タッチすると機能リストが開きます。チャンネルまたはミックスに関連するミュート、レベル、またはアサイン (ON/OFF) を選択できます。「Send On/Off Radio」は、あるボタンをONにすると他のボタンがOFFになる連動「ラジオモード」で動作する一連のボタンをアサインできます。

ロータリーにタッチして回すと、チャンネルまたはミックスがスクロールします。アサインが完了したら「Apply」を押します。

① Qu-Control の設定は、ショーファイルの一部として USB デバイスに保存されます。シーンメモリーには保存されません。



## 9.8 セキュリティとユーザーアクセス権限



Quには、無許可の機器やアプリへのアクセスからシステムを保護し、特定のオペレーターに与えられるコントロールの範囲を制限するいくつかの機能があります。たとえば、レギュラーのイベントオペレーターが決まった構成を変更できないようにしたり、技術者ではないバーのスタッフがBGMとページングだけを簡単にコントロールできるように制限する事ができます。

**Lock Surface (ロック・サーフェイス)：**「Home」画面にある、このボタンを使用すると、オペレーターがミキサーから離れている間にサーフェイスのコントロールを保護できます。

**User Permissions (ユーザー権限)：**3種類のユーザープロファイルが用意されています。

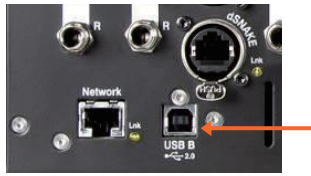
**Admin：**全アクセス権限があります、ユーザー権限の設定とパスワードの設定を行う事もできます。

**Standard：**ライブミックスを操作できますが、システムセットアップ機能からはロック・アウトされます。

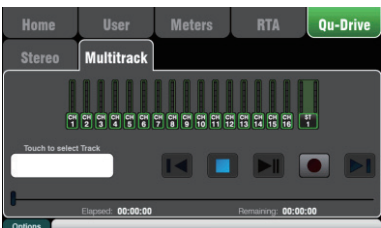
**Basic：**フェーダーとミュートのみを操作できます。あるいは、Qu-Control 画面以外からロック・アウトすることもできます。

3種類のユーザーごとにパスワードを設定できます。パスワードは、ログイン時およびサーフェイスロック解除時に入力する必要があります。Qu-Pad アプリは同じユーザー権限に従います。Admin ユーザーは、Qu-You および Qu-Control ユーザーのパスワードを個別に設定可能で、またStandardユーザーとBasicユーザーに対して、シーンの範囲とログイン時のシーンの設定も可能です。

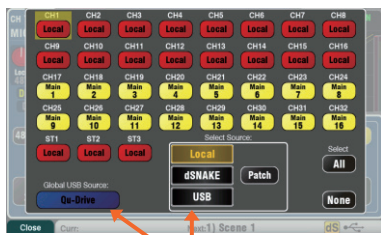
## 9.9 USB レコーディング／プレイバック



レコーディングソースをパッチ



レコーディングソースをパッチ



**USB B ストリーミング：**Apple® Mac または Windows® PC を背面パネルの USB B ポートに接続すると、最大 32 チャンネルのオーディオの双方向ストリーミングと MIDI メッセージの送信が可能です。

ALLEN & HEATH **DAW Control ドライバー** (Mac 専用) をダウンロードすると、Qu MIDI Strip メッセージを HUI または Mackie Control プロトコルに変換できます。標準 MIDI メッセージを PC にストリーミングするには、ALLEN & HEATH **Qu Windows ドライバー** をダウンロードしてください。

Qu の MIDI チャンネル番号の設定は「**Setup**」>「**Control**」>「**MIDI**」画面で行います。

**USB ドライブへの Qu-Drive ダイレクトレコーディング：**前面パネルの Qu-Drive ポートに接続した USB ストレージデバイスに、**ステレオ**または **ロータリー**は**18トラック**それぞれに使用できます。Fn キー「+1 (加算)」を使用して、トラックをすばやく移動できます。チャンネルソースは Insert Sends が Direct Out を選択してください。

※ Qu-Drive レコーディングには、高速のサステイン転送レートに対応した USB ストレージデバイスが必要です。全ての USB デバイスで完全な性能が保証されるわけではありません。詳細については、ALLEN & HEATH ウェブサイトの Qu ナレッジベースに掲載されている文書「**Understanding Qu-Drive and USB**」を参照してください。録音した USB ストレージデバイスは Qu ミキサーのみで使用し、他の用途には使用しないでください。

**Qu ミキサー用での USB デバイスのフォーマット：**録音する前に「**Setup**」>「**Utility**」>「**Qu-Drive**」画面で行います。ドライブの内容が消去され、Qu ディレクトリー構造が作成されます。

**録音ソースのパッチ：**「**Setup**」>「**I/O Patch**」>「**USB Audio**」画面を使用します。個別に設定可能で、また Standard ユーザーと Basic ユーザーに対して、シーンの範囲とログイン時のシーンの設定も可能です。

ステレオ録音は、マルチトラックの CH17 / CH18 と同じソースを使用します。

**ステレオ／マルチトラック録音：**「**Home**」>「**Qu-Drive**」画面を使用します。録音すると、USB ドライブ上の Qu ディレクトリー内に WAV ファイルが作成されます。

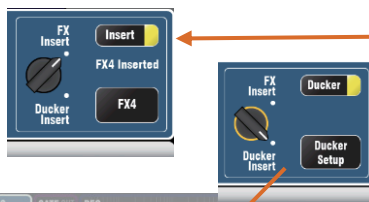
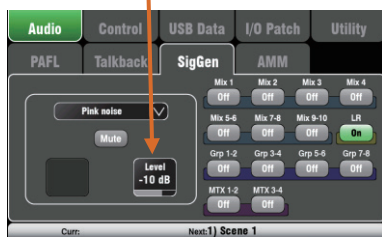
① USB デバイス上のファイルの名前や内容を編集しないでください。コンピューターでファイルのコピーまたは削除を行った場合、エラーを回避するために、次のセッションで使用する前に Qu ミキサーでデバイスをフォーマットし直すことをお勧めします。

**ステレオ／マルチトラック再生：**「**Processing**」画面の「**Preamp**」ページを使用します。チャンネルのソースとして「**USB**」を選択し、グローバル USB ソースとして「**Qu-Drive**」を選択します。

**Soft Keys (ソフトキー) ソフトキーによるトランスポートコントロール：**「**Setup**」>「**Control**」>「**SoftKeys**」画面を使用して、ステレオ／マルチトラック録音または再生のトランスポートコントロールをアサインすることが可能です。例えば、他のミキシング機能の使用中に録音の準備、開始、停止を行うことができます。

## 9.10 その他の機能

レベルを下げた状態から開始



**シグナルジェネレーター（信号発振器）によるスピーカーのテスト：**PA の配線が完了したら、アンプとスピーカーのレベルが正しく設定されていることを確認します。システムの電源を正しい順序で入れます。

❗ 最初にミキサー、最後にアンプ／スピーカーの電源を入れてください。

ピンクノイズはスピーカーのテストに最適なソースで、オクターブごとと同じエネルギーを全周波数帯域にわたって生成します。全てのスピーカードライバーの機能をチェックしたり、位相と極性の問題がないか聴感確認や測定に使用できます。

LR およびモニター用のマスターフェーダーを通常の位置に設定します。「Setup」>「Audio」>「SigGen」画面を開きます。「Pink Noise」を選択し、レベルが完全に OFF であることを最初に確認してください。LR を選択し、SigGen レベルを徐々に上げてスピーカーから出るノイズを確認してください。モニター用のスピーカーも同様の方法でテストできます。

**FX のインサート：**内蔵FX（リバーブ、ディレイ、モジュレーション）を入力チャンネルまたはミックスマスター信号パスに直接インサートできます。FX画面のD/Wコントロールを使用して、ドライ/ウエットのバランスをとります（ドライ：原音のみ/ウエット：エフェクター音）。

**Ducker（ダッカー）：**入力チャンネルまたはグループにダッカーをインサートできます。いずれかのチャンネルの信号をトリガーとして使用し、その信号がアクティブな時に他のチャンネルを自動的にダッキング（減衰）できます。例えば、呼び出しマイクをトリガーとして使用してBGMチャンネルをダッキングするページング的な動作が可能です。ダッキングとリカバー（レベル回復）の速さを調整します。

**オートマチック・マイク・ミキシング（AMM）：**この機能はテーブルを囲んで複数のマイクを仕様する会議やセミナーなどのスピーチ用途に有効です。Qu の AMM は、それらのマイクのレベルを自動的に下げて明瞭度を高めると同時に、多数のオープンマイクによるフィードバック（ハウリング）のリスクを低減します。

AMM をセットアップするには、まずミックスのマスターフェーダーを下げた状態から始めます。PAFL を使用して各マイク信号をチェックし、マイクから所定の距離で話した時にメーターが適正なレベルを示すように、プリアンプゲインを設定します。

「Setup」>「Audio」>「AMM」画面を開き、関連するマイクチャンネルを ON にします。フェーダーを「0dB」ポジションにします。ミックス・マスターフェーダーを徐々に上げます。他のソースもミキシングする場合は、スピーチ用チャンネルのマスターとしてDCAグループやオーディオグループを使用する事をおすすめします。

AMM の詳しい仕組みと使用方法については、『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

**モニタースピーカーのハウリング防止：**Qu-Padアプリを使用すると、ステージ上のボーカルマイクの前に立って、iPad を使用してボーカルをモニタースピーカーに送り、ミックス GEQ を使用してハウリングを防止することができます。モニターミックスのマスターストリップの Mix ボタンにタッチします。そのストリップがそのモニターミックスのマスターになります。そのストリップにタッチして選択し、「GEQ」タブを開きます。PAFL ボタンにタッチして信号を RTA に送ります。フェーダーストリップでそのモニターミックスに信号を送ります。モニターから声が聞こえるまで、ボーカルチャンネルのセンドフェーダーを上げます。フィードバックしたハウリングオンが聞こえるまでフェーダーを慎重に上げます。フィードバックが発生している周波数は、GEQ の上にある RTA ディスプレイの赤いドットによって示されます。ハウリングが止まるまでその帯域の GEQ スライダーを数 dB 下げます。再び、次の周波数のハウリングが聞こえるまでボーカルレベルを徐々に上げます。全体的な音質低下を避けるために、この方法であまり多くの周波数のレベルを下げないようにしてください。

## 10. ミキサーのリセット

Qu の設定を慣れているスタートポイントにリセットするには、2通りの方法があります。

### 10.1 Reset Mix Settings : ミキシングのスタートポイント



「Scenes」画面のこのボタンにタッチすると、ミキサーは直ちに慣れているミキシングスタートポイントにリセットされます。この方法では、ショーの前、または別のユーザーが終了した後に、プロセッシング、ミックス、パッチをリセットする簡単な方法をご紹介します。

シーンに保存可能なパラメーターは全て工場出荷時設定にリセットされ、新しいセッションの準備が整います。

現在の設定を取っておきたい場合は、ミキサーをリセットする前にシーンとして必ず保存してください。

このリセットはシーンに保存されるパラメーターにのみ影響し、ミキサーに保存されている既存のシーンやライブラリーには影響しません。

❶ このリセットは、グローバルフィルターおよびセーフ設定の影響を受けず、フィルターをリセットし、設定済みのチャンネルセーフを消去します。

「Reset Mix Settings」ボタンを1秒間長押しすると、確定画面が表示されます。

**独自のスタート設定の作成**：まずミキサーをリセットし、パッチ、レベル、およびパラメーターを必要に応じて編集します。名前を付け、シーンとして保存します。

リセット機能の詳細については、『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

### 10.2 システムハードリセット : 全消去



Qu ミキサーの設定およびメモリーを完全にリセットする必要がある場合、ハードリセットが可能です。この操作を実行する状況としては、他の人にミキサーを渡す前に設定された内容を全消去する場合や、Quシステムの問題が疑われる場合、システムをクリアするために行います。

ショーまたはサウンドチェックの開始前にミックスパラメーターをリセットするには、「Scene」または「Reset Mix Settings」機能を使用してください。

❶ ハードリセットでは、現在の設定が全て工場出荷時設定にリセットされ、全てのシーン、ユーザーライブラリー、ユーザー権限、およびパスワードが消去されます。

まず、アンプやパワードスピーカーを含め、システムの電源をOFFにしてください。

**Qu ミキサーのハードリセット**：タッチスクリーンの「Reset」キーと「Setup」キーを同時に押しながら、ミキサーの電源をONにしてください。Quの起動中は少なくとも5秒間はキーを押し続け、キーを放してください。

各種 Qu ハードウェアおよび操作機能の詳細については、『Qu シリーズリファレンスガイド』を参照してください。

# ALLEN & HEATH

- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70 TEL: 03-5419-1560 FAX: 03-5419-1563  
E-mail: [info@hibino-intersound.co.jp](mailto:info@hibino-intersound.co.jp) <https://www.hibino-intersound.co.jp/>

2023年7月版